

すずの会

「自分たちの介護経験を地域で生かし、介護をする家族をサポートできないか。行き場を失った家族や当事者の集う場所が欲しい」。こんな思いで、PTA仲間5人が22年前、すずの会を結成した。現在会員は12人。2014年には、いつでも利用できる拠点として、宮前区野川にすずの家をオープンした。

ムラでは週一回「MiniParty」を開いている。写真、利用者の会話が弾み、楽しみの場になっている。ボランティア手作りの昼食は精進食だ。地域包括支援センターからの依頼で受け入れ

住民主体の地域ケア



た10代の男性は、当時事業に失敗し、家族とも別れた後の暮らしの生活保護受給者。リストカットを繰り返す重度のうつ病患

者だったが、ここに通ううちに

徐々に笑顔が増え、元職人職を生かし施設の修繕などを活躍する。

また、別のやり暮らしの男性は、自宅でガスコンロけたまま寝込んでいるところを発見され、会を「市の職人まつり」の時は、会を支援している医師に連絡し、入院すまでを行った。

ボランティアとして活動元中学校長の津田知充さんは「お年寄りの弱からस्ताの私たちが教わることも多ボランティアで10人がもりのもろれしい」と語る。

代表の鈴木恵子さん(69)アマネジャーと社会福祉士格を持つ主婦。「住民が主になって、お互いに地域でやるべきが大切」と語る。

〔市報記者・高橋 真〕

市民発

地域をつくる人・活動

川崎

